



コアツ工業<1743>、植村グループによるTOBを受け入れて株式を非公開化



PC（プレストレスト・コンクリート）橋梁工事を主力とするコアツ工業は、建設業の植村組（鹿児島市）を中心とする植村グループのTOB（株式公開買い付け）を受け入れて株式を非公開化する。植村グループはコアツ工業の株式30.04%を所有する筆頭株主で、同社設立（1959年）に深くかかわるなど、両社は緊密な関係にある。

国の「国土強靱化計画」などを受け、インフラの老朽化対策や防災・減災対策の強化に向けた需要が見込まれる中、植村グループと経営を一体化することで中長期的な成長戦略の実現を目指す。

TOB主体は植村グループの各社が出資し、コンサルティング事業を手がけるウエムラ（鹿児島県薩摩川内市）。

ウエムラによるコアツ工業株の買付価格は1株につき1840円。TOB公表前日の終値1659円に10.91%のプレミアムを加えた。買付予定数は159万1188株。TOB成立の条件となる下限は所有割合36.63%にあたる83万3200株に設定した。30.04%を所有する植村グループはTOBに応募しない。買付代金は29億2778万円。

買付期間は8月6日～9月18日の30営業日。決済の開始日は9月26日。公開買付代理人は大和証券。

コアツ工業はTOBに賛同し、株主に応募を推奨することを決めた。同社が今回、TOBを受け入れることにした背景として、東証スタンダード市場の上場維持基準の一つである流通株式時価総額（10億円以上）を満たさなくなる可能性もあったとしている。

コアツ工業は1959年、植村組が鹿児島、宮崎、熊本の各県に持つコンクリート製品（ヒューム管）工場を引き継ぎ、南日本高圧コンクリートとして発足。1990年に現在の社名に変更。現在、PC橋梁工事を中心とする建設事業が売上高の9割超を占める。

2001年に大阪証券取引所2部と福岡証券取引所に上場。その後、2013年に東証2部への指定替えを経て、2022年4月に東証スタンダード市場に移行した。